【海外留学レポート】

タイで優しさに包まれた 141 日間

-初海外となる留学を通して-

141 Days Supported by Everyone in Thailand: Study Abroad for the First Time

青山学院大学地球社会共生学部　**岩城　つづみ**

IWAKI Tsuzumi

(School of Global Studies and Collaboration, Aoyama Gakuin University)

キーワード：タイ留学

はじめに

私は 2017 年 8 月 3 日から 12 月 21 日までの半期間、東南アジアに位置するタイへの留学を経験した。現代において、海外留学でアジアへ行くというのは少し珍しいかもしれない。私が所属する青山学院大学地球社会共生学部では、「体験すること以上に効果のある教育はない」という信念のもと、学生全員が“アジア”というフィールドで半期以上を過ごすことが卒業要件の一つにもなっている。

本レポートでは、海外に行くこと自体初めての私が経験したタイでの学校生活・日常生活、そしてそこから感じたことなどを改めて振り返ってみたい。

思い出を彩るタイ人の温かさ

私の約 5 カ月間の学びは、バンコク市内に位置するカセサート大学（メインキャンパスであるバンケーンキャンパス）で行われた。同キャンパスは、タイの中で最も大きいとされており、学内の移動は巡回バスやバイクタクシーが主流であった。また、銀行や病院などの公共施設のほかにも、スターバックスコーヒーを始めとする数多くのカフェが点在している。

極度の方向音痴である私は一向に道を覚えることができず、最初の 1、2 カ月は常に地図を片手に、壮大なキャンパスを彷徨っていた。そんな時、道を尋ねようと声をかける前に手を差し伸べ、「一緒に行こう！」と案内をしてくれるタイ人学生。朝からの激しいスコールで寮から大学までの道が大洪水となり、道の途中であたふたしていた時には、「後ろに乗って行きなさい！」と声をかけ、車で送ってくださった女性教員の方。留学生だからという垣根を越えて、「この子は困っているから何か力になれ

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ないか」というような彼らの優しさが、あらゆる場面で伝わってきた。

留学中の履修科目に関しては、留学生向けに開講されている科目の中から、自分の興味関心に沿って選ぶ形式であった。私は「せっかく留学に来ているから、タイでしか学べないこと、タイ人のみんなと積極的に関わりを持てることがしたい！」という思いで時間割を組んだ。その中でも、“Thai Culinary Arts Theory and Practice” という、調理実習を通じてタイ料理を学ぶ実践式の授業がとても印象に残っている。現にレストランを経営されている先生のご指導の下、毎回授業とは思えないほど見た目・味ともに非常にクオリティの高いものを作った。調理器具や食材など、どれも日本では見たことのないものばかりで、見て触って感じて、五感を使って楽しむ、日本では受けることのできない授業であった。料理という観点からは何も役に立つことはできなかったが、ここでも同じグループのタイ人学生に助けられ、毎回非常に楽しく授業を受けることができた。

大学内で行われた灯篭流しのお祭り“ロイクラトン”も、タイを味わうことのできる幻想的なイベントであった。この行事では、川の女神に感謝を込めて子どもから大人まで、みなが川に灯篭を流す。広大な面積を持つカセサート大学内でも盛大にお祝いされ、多くの屋台が辺り一面に立ち並び、いつにも増して賑やかであった。他にも大学側が、留学生向けに日帰りまたは泊りがけでのフィールドトリップや Food festival など多くのイベントを企画して下さり、学業以外の観点からも、大変充実した生活を送ることができた。

（写真 1）タイ料理の授業の一コマ
タイ人学生が温かく迎え入れてくれた。

（写真 2）
授業内で調理したタイの伝統料理

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

（写真 3,4）学内で行われたロイクラトン祭り

バディーのタイ人学生とお祭りを楽しむ様子

新たな出会いから広がる視野

新しい人との出会いは、自分の人生を豊かにしてくれる。人と話すことが好きな私は、日本にいたときからも多くの人との出会いや会話を楽しんできたが、留学ではより出会いの幅が広がる。それを感じたのは寮での生活だ。私たちが滞在した寮には、他大学から来ている日本人留学生の他にも、インドネシアやカンボジアなど、主に東南アジアからの留学生もたくさんいた。彼らと話し、自分とは違う考え方や生き方に触れることは、いかに自分が小さな世界で生きていたのか、そもそもわたし“岩城つづみ”という存在について考えるきっかけをも与えてくれた。

特に印象に残っているのは、ムスリムの体験をさせてもらったことだ。留学して 1 カ月ほど経った 9 月 3 日、イスラム教で定められた宗教的な祝日をインドネシア・マレーシアの友人とお祝いした。実際にヒジャブを被り、ハラルフードを食べ、礼拝にも参加させてもらった。経験したことに対して、そこから何を感じるか。恥ずかしながら私自身、イスラム教とはどういった宗教なのか、何をハラルフードと呼ぶのかなど、基本的な知識さえも全くなかったため、自分の無知さを再認識し、幅広く学んでいく必要性を痛感する場面ともなった。

人との出会いという観点から感じたこととしては、英語の重要性も挙げられる。タイ人学生や寮で出会ったアジア系の留学生は、みな流暢に英語を話す。「もっと英語を話せたらよりみんなと深く関わることができるのに。」英語が十分に話せないことで一歩引いてしまい、自分の小さな世界に閉じこもってしまう場面もあった。今回の留学は語学留学ではなく、英語がすべてという訳ではもちろんないが、英語でコミュニケーションを図れるかどうかによって、行動の幅や人との交わりも深くなり、結

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

果としてさらに自分の世界を広げることにつながると感じた。

（写真 5）寮で出会ったカンボジアの留学生

（写真 6）Eid AL Adha というイスラム教の祝日に行ったムスリムの一日体験

人生を豊かにする留学

留学生活は人によって経験することも、そしてその感じ方も異なってくる。しかし共通して言えることは、「留学によって一歩踏み出すことで、自分の生き方の幅を広げる」ということではないだろうか。鷲田[1]が言うように、「自他の差異に出会うことは、他者を鏡として理解することで、自己への理解が深まっていくことにもつながっていく。」(高城 2018:13)のである。日本では自明視して気づけなかったことが、外部世界と関わることで初めて当たり前ではなかったと知り、さらに自分が知らなかった自分にも出会うことができる。

「タイで半期を過ごせて、本当に良かった」心の底からそう思う。日本とタイは仲が良いということは聞いていたが、実際に行ってみるとトヨタやホンダなどの自動車をはじめとして、大戸屋やダイソー、多くの日系企業が進出していて非常に過ごしやすかった。そして何よりも、タイという微笑みの国で、人の温かさを強く感じた。言葉では表すことのできない、本当に温かなまなざし、心遣いをたくさんもらった。それは上辺ではない、心の底から自分のことのように相手を思いやる気持ちだ。

現地での人との出会いが、留学生活をより豊かなものにしてくれる。4 月からは日本の大学に戻り、大学 3 年生となった。タイで自分が留学生の立場となり実感したこと、経験したことを活かして、自らも日本に来た留学生の、最高の思い出作りの手助けをしたい！と思い、留学生の生活をサポートするチューターに立候補した。私がタイを大好きになって帰ってきたように、私も彼らに「日本に来て良かった」と、そう思ってもらえるような行動をしていきたい。

[1] 『大学生のための異文化・国際理解　差異と多様性への誘い』，高城玲，丸善出版株式会社，平成 29 年 1 月 31 日発行

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

おわりに

今回の留学では、自分がどれだけ周りの人に支えられているかということを強く実感した。カセサート大学・青山学院大学双方の手厚いサポート、上記でも述べたタイ人の温かさ、同じく半期留学を共にした学部生のみんな、日本から見守ってくれていた家族。私にとって初めての海外であり、不安なことばかりであったが、出会えたみなさんのおかげで素敵な１４１日間を送ることができた。

この場をお借りして、再度感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

（写真 7）たくさんお世話になった大好きなバーマイ（食堂）

＊ 本記事については、本マガジン『留学交流』２月号にも下記の関連記事が掲載されていますので、ご参照ください。

【事例紹介】

『青山学院大学地球社会共生学部』の挑戦

-東南アジア半期留学必須の試み-

青山学院大学地球社会共生学部学部長　平澤　典男

(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2017/__icsFiles/afieldfile/2018/02/08/201802hirasawanorio.pdf)

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.